

本研究の目的は、これまで公開されている特徴的な地域教材を対象に調査、分析を行い、英語科における地域教材の意義とあり方について考察し、今後あるべき地域教材について提案することである。そのために、①地域教材はどのようなねらいで作成されているのか、②どのような種類の地域教材が作成されているのか、③今後のどのような地域教材が求められるのか、の3つのリサーチクエスチョン（以下、RQ）を設定した。

今回は、研究論文や実践報告、また雑誌やインターネット上で公開されている21の英語地域教材を対象に調査、分析した。校種は、小学校、中学校、高等学校である。英語教員が授業で使用するために作成している自主教材等は、公開されているもののみを調査対象としている。

調査、分析の結果、RQ.1については、地域教材のねらいは、第一義として、英語力、コミュニケーション能力の育成であり、地域について学んだことを世界に発信する資質・能力を身に付けさせることだということが明らかになった。それに加え、地域のことをより深く学び、地域を愛する心情を涵養するという目的も設定されていることも検証することができた。RQ2については、RQ1のねらいを達成するために、これまで主流だった読み物教材に加え、教材の多様化が図られ、ICTを活用した発信型・交流型の教材も開発されるようになってきていることが明らかになった。そして、RQ.3だが、学力観の変遷やICT機器の発達によって、特に即興でのやり取りを設定するためには、ICTやインターネットがより活用されるべきであるということが明らかになった。そして、今後、児童生徒が日本人としてのアイデンティティをもって自分の地域を語るために、地域教材の意義は今後さらに高まるものとする。ただ、今回の調査分析では、開発費の問題、開発にかかる時間の問題、地域による題材の偏りの問題、地域教材の活用の問題等、課題も明らかになっており、今後解決策を模索していく必要がある。

以上のことから、英語の地域教材の開発、活用は、グローバル化がさらに進む日本社会において、日本人の英語力やコミュニケーション能力及びアイデンティティの育成に重要な役割を果たすものであると確信する。地域教材を活用し、外国に向けて発信したり外国人との交流をしたりすることで、児童生徒の国際人としての資質・能力を涵養できるものとする。10年後には児童生徒1人1人にタブレットが配布されて、ICTやSNSを含めたインターネットがフルに活用される授業が展開されるかもしれない。今後は、時代の速い流れに合った教材開発が一層求められることになるだろう。英語教育の現場に少しでも協力できるよう、地域教材に関する研究を推進させていきたいと考える。

なお、本研究の詳細については、青森公立大学論纂にて公開し、広く周知する予定である。